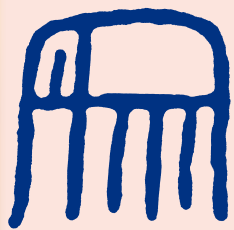


同窓會報



〒610-1197 京都市西京区大枝沓掛町 13-6
 京都市立芸術大学美術学部同窓会 象の会
 発行人：同窓会会長 上村 淳之
 TEL/FAX 075-334-2218
 携帯 /090-7353-6999
 http://www.kyogei-ob.jp
 E-mail info@kyogei-ob.jp

京都市立芸術大学 作品展

京都市立芸術大学 作品展 2019
 Annual Exhibition 2019 Kyoto City University of Arts
 主催：京都市立芸術大学 / 京都市立芸術大学美術部美術展委員会



京都市立芸術大学
 元崇仁小学校

2020.02.08 SAT - 02.11 TUE-HOLIDAY 9:00-17:00 (入場16:30まで)

京都市立芸術大学
 Kyoto City University of Arts

会場／京都市立芸術大学構内、元崇仁小学校（下京区）

京都造形芸術大学の名称変更問題対応の経過

標記の件は、新聞・TVなどですでにご承知のことと存じますが、多くの同窓生の皆様からもご心配の声や、憤慨されているご意見が同窓会へ多く寄せられています。現在裁判中のことであり、お知らせできる情報は限られますが、今までに公式に発表された事をお知らせいたしますのでご承知いただければ幸いです。同窓会ホームページにも「号外」として掲載しています。現在は、大阪地方裁判所において本訴訟の審理が行われているところです。

- 7月20日、京都造形芸術大学の「京都芸術大学」への名称変更に対し、同窓会（象の会・真声会）両会長名で京都造形芸術大学理事長宛に抗議文を発送。（会報象69号同封の「号外」でお知らせ）
- 8月28日、本学の赤松玉女理事長が、コメントを発表。
 （概要）「京都造形芸術大学が、名称変更を中止再考されるようお願いしてまいりましたが、その願いを聞き届けていただけなかったことは誠に残念です。当事者間では解決の方向性を見出し難いと判断した場合は、法的措置も含めた適切な対応をとってまいります」
- 9月9日、両同窓会は、会長名で赤松理事長宛に要望書を提出。
 （概要）「京都市立芸術大学の名称・略称を守り、大学の取り違えなどの社会に生起するであろう無用の混乱を抑止するため、適切な対応をしていただきますよう、本学同窓生の総意として強くお願いいたします」



国道9号線の道路案内標識

- 11月11日、「要望書」に対し、赤松玉女理事長から次の回答が寄せられました。

令和元年9月9日付で、京都造形芸術大学の名称変更に対する本学の対応についてご要望いただいた件につきまして、現時点での状況を回答いたします。

本学といたしましては、9月2日、大阪地方裁判所に学校法人瓜生山学園が設置する大学の名称として「京都芸術大学」を使用しないよう求める訴訟を提起し、同学園による名称使用の差し止めに求めているところです。

残念ながら、同学園は本学が指摘した事実関係や法律関係を争う姿勢を示されているため（同学園は、京都地域においても本学の名称は広く知られているものでないと答弁されています。）本学は、同窓会にもご協力いただき、本学の名称及び略称が、広く知られていることを証する資料を収集するなど、訴えが認められるよう努めております。

学校法人瓜生山学園が「京都芸術大学」への名称変更について、法人自身の判断で中止再考されない場合は、引き続き、司法の場で適切な判断を求めて参ります。

同窓会の皆様からは、挙証資料の収集だけでなく、力強い応援や激励のお言葉を頂戴し、大変力強く感じております。

引き続き、ご理解とご協力を賜りますよう、お願いいたします。

（文責：代表幹事 野崎邦雄）

Head line

京都造形芸術大学の名称変更問題対応の経過	1
「京都芸大同窓会アートオークション2021」の開催概要	2
「同窓生名簿2020」発行と名簿記載データ確認のお願い	2
「同窓会象の会 総会2020」に出席のお願い	3
退任にあたって	3
Relay Talk象の会・いろあわせ ⑩	5
2019年度 同窓会展	6

研究室だより 総合芸術学研究室	8
会員展覧会	10
学内消息（資料）	11
事務局だより	12
ご寄付の御礼	12
編集後記	12

大学創立140周年記念・大学移転支援事業 「京都芸大同窓会アートオークション2021」の開催概要



昨年の会報69号でお知らせしていました「京都芸大同窓会アートフェア2020」(仮称)、第1回実行委員会で「京都芸大同窓会アートオークション2021」を正式名称とすることを決定し、委員長に同窓会副会長：望月重延先生を選出してオークション開催の内容を決定しました。その概要をお知らせし、同窓生の皆様から多くの作品が出品(寄付)されますようお願い申し上げます。

今回は、前回にも増して大学の協力をお願いし、実行委員会に中原浩大美術学部長が参加いただくことになりました。また、現学長、前学長を始め客員教授の先生方にも応援団として支援をお願いすることになっています。

【開催概要】

主 催：京都芸大同窓会アートオークション2021実行委員会
(委員長：望月重延)
期 日：2021年(令和3年)1月8日(金)～1月11日(月)
＜1月7日(木) プレス発表、内見会、オープニングレセプション＞
会 場：京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA
(堀川御池ギャラリー全館)
〒604-0052 京都市中京区押小路町238-1
TEL 075-253-1509

●募集作品

- ・同窓会会員(母校に在籍した方、現学部生、現大学院生、教員、元学長・教員など)が制作した作品。(同窓会会員のご遺族の応募も可能です)
- ・作品のジャンル、素材は問いませんが、平面では10号Fサイズ(作品サイズ)を基準とし、立体では縦横高さの合計が概ね150cm以内で重量が10kgまで(一人が手に持って移動可能な重量)とします。
- ・出品者一人2点までとします。＜主催者が展示に適さないと判断した作品は除外します＞

●募集期間(エントリー)

- ・出品の募集(エントリー)期間は、2020年(令和2年)9月1日(火)～10月31日(土)ですが、エントリー用紙とオークションの詳細は、会報71号(9月)に同封します。また、同窓会のホームページからもダウンロードできます。

- 寄付目標額 1,000万円以上＜設備・備品充実のため＞
(前回実績：1,000万円)

大学創立140周年記念 「同窓生名簿2020」発行と名簿記載データ確認のお願い

前回国報(69号)でお知らせしました「同窓生名簿2020」を今年の7月1日に発行いたします。同窓生名簿は、5年毎に改訂し、最新名簿として発行してきていますが、今回も個人情報保護に留意しながら、正確な情報を同窓生に提供できるよう、同窓生に役立つ名簿づくりを目指しています。

同窓会活動の根幹は、同窓生名簿の整備と管理にあると存じます。この趣旨をご理解くださいます。名簿記載データの確認にご協力を賜り、一人でも多くの方にご購入いただき、ご活用くださいますようお願い申し上げます。

＜同窓会は、2015年に「個人情報の取り扱いについてガイドライン」を策定しています＞

●「同窓生名簿2020」の概要

- ・1880年の開校以来140年、2020年春の入学生まで、同窓生と教員の全て約14,500名を収録
- ・掲載項目は、現姓名(旧姓、作家名など)、郵便番号と現住所、電話、所属、勤務先など、(現学生は姓名のみを収録)
- ・資料編として、開学以来の沿革、歴代学長・学部長など、現教員名簿、旧教員名簿(就任と退任の年月日)を収録
- ・体裁：B5版、たて型、約500頁、口絵カラー写真、現旧姓名で検索できる索引
- ・発行日：2020年(令和2年)7月1日 ＜限定2,000部発行＞

●購入予約と代金の振込などについて

- ・頒布価格は、1冊4,000円(税送込)ですが、予約で購入される場合は1冊3,500円(税送込)で頒布します。頒布は、同窓生一人1冊に限りです。

購入予約は、会報に同封の「回答シート」の下欄にあります「☐同窓生名簿購入予約します」にレ印を記載して返送ください。併せて同封の郵便振替用紙の「同窓生名簿2020代金」にレ印を記載し、6月26日(金)までにお近くの郵便局から代金をお振り込みください。

- ・「回答シート」では予約しなくても、その後、購入を希望される場合は、同封の郵便振替用紙で6月26日(金)までに代金をお振込みください。予約されたものとして取り扱います。
- ・2,000部の限定発行です。在庫が無くなればその時点で頒布を終了いたします。

●「回答シート」＜同窓生名簿2020記載事項確認票＞について(お願い)

- ・同窓会象の会が、現在把握・登録している貴方のデータを、同封の「回答シート」に印字しています。誤りや変更のある場合は、訂正して返送ください。
- ・姓名以外で、名簿への掲載を希望されない項目があれば、その項目を○で囲んでください。
- ・「回答シート」は、同封の返信封筒で3月31日(火)までにご返送ください。

「同窓会象の会 総会2020」に出席のお願い 《7月5日(日)10:30～ ホテル日航プリンス京都》



同窓会象の会総会は、規約で5年毎の開催が決められ、規約改正や人事案件など重要な事項を審議するとともに、多くの同窓生が一堂に会して楽しく懇親交流を深める場として位置づけています。今年は、その総会開催の年にあたります。ぜひとも多くの同窓生にご出席いただきますようお願い申し上げます。

総会、懇親交流会開催は次のとおりです。

日時 2020年7月5日(日) 午前10時30分から(受付は10時から)
場所 ホテル日航プリンス京都 会議場・宴会場
京都市下京区烏丸通高辻東入の北側
電話：075-342-2111
会費 懇親交流会(食事・飲み物付) 5,000円
(郵便振替用紙で事前振込)
<役員会・総会・記念講演の出席は無料>
内容 役員会・総会 10:30～11:30
記念講演(赤松玉女学長を予定) 11:30～12:30 <休憩・会場移動>
懇親交流会 12:45～15:00頃

- ・総会の出欠は、「回答シート」にレ印を記載してください。欠席の場合は「回答シート」の委任状に氏名を記載ください。
- ・懇親交流会の出欠は、「回答シート」にレ印を記載してください。
- ・いずれも3月31日(火)までに同封の返信用封筒で返信ください。
- ・懇親交流会出席の方は、同封の振替用紙で懇親交流会費(5,000円)にレ印を記載して郵便局から6月26日(金)までにお振込みください。
- ・「回答シート」で無回答、欠席と回答し、その後出席することになった場合、6月26日(金)までに懇親交流会費を振込いただければ出席として取り扱います。
- ・また、7月2日(木)までに欠席の連絡をいただければ、振り込んでいただいた懇親交流会費(5,000円)を振込手数料を差し引いて返金いたします。

退任にあたって (2020年3月退任予定)

日本画研究室 教授

浅野 均



京都芸大に入学し、1970年代半ばを東山の今熊野校舎で過ごしました。様々な授業を受講し、日本画の素材に初めて出会い本格的に美術を学び始め、どうすればよい作品が作れるのか、という問題が当然のように出てきました。長谷川等伯の楓図や俵屋宗達の松の障壁画の実物がすぐ近くの寺院にあり、いつでも鑑賞でき、又5分ぐらいで立ち寄れる京都国立博物館は一画学生には宝石箱のようで、よくお世話になりました。少しすると身近な文化財の絵画には舶載されたものと独自に展開されているものが混在していて、それらを整理する必要性が生じてきました。以後中国美術の研究にも力を入れる契機になりました。日本画専攻の授業では先生方は共通してデッサンにはとても厳しく、夏冬問わず屋外での写生やデッサンの日々でした。有形無形の対象と対峙する事で自己の内面と外の世界を実感し表現することを教わった

様な気がします。専攻科最後の1年は洛西での新校舎でした。

暫くして母校で教鞭を取る機会が訪れ、後輩の学生達とともにこれからの日本画を研究することになりました。この間刻々と東アジアの美術界や教育界の活性化が進み、現在までの比較的短期間で大きく変化が生じたことは知られています。世界中の創作が東アジアにも集まり、リアルタイムで大規模に展示される機会も多くなりました。そういった活力と可能性を学生にも感じ取ってもらいたい気持ちで日本画研究室では、おもに東アジアとの国際交流など広い視野での研究活動も活性化させています。

今後の京都芸大の可能性を感じながら退任を迎えました。長きにわたり教育、研究、創作を支えてくださった多くの方々に感謝いたします。

彫刻研究室 教授

中ハシ 克シゲ



京都芸大に着任し、一番必要に思えたのはモデリングに対する概念でした。モデリングは一見、形をコピーする為の技術に見えますが、そうではありません。形の起伏を理解し、どのように表現するのかの思索のチャレンジで、ここに楽しさがあります。一方で、アカデミックな塑造教育にも嫌気がさしていたので、習慣的な人体モデルは出来るだけ避けて、導入に手間と暇の掛かる牛や豚や馬をモデルとして使うことにしました。そして学内で、普段はフォークリフトを保管している倉庫で学生に世話をしてもらいました。家畜に触れる機会は現代の社会ではほとんどありません。健全に飼育するための運動、餌やり、糞尿の始末と衛生。そして何よりも動物への思いやりが必要です。そして、食用になってしまうその最期についても自然に学ぶことができたと思っています。他専攻の学生も、時折やってきては、ドローイングに参加

してくれ楽しい時間となりました。モデリングに伴って特に必要なのは、なんといっても「奥行き感覚」です。この感覚の理解のために日本画の小島徳朗先生とテーマ演習として立ち上げました。そのうちに他専攻の先生も参加してくれ、八年間という長い授業となりました。この授業では、先生、学生という上下の関係を廃して、一緒に課題を考案し、一緒に制作の取り組みをして批評をするというシステムを作ったので、美術の部活のような愉快な場となりました。この授業は、幸運にも学内の助成金や科研にも採択されて予算も充実し、様々な講師を招くことや、冊子の出版、学生を連れた研修旅行も可能になり私の人生でも忘れがたい体験となりました。テーマ演習に参加してくれた学生諸君、先生方、そしてこうした素晴らしい環境と機会を与えてくださった京都芸術大学の大勢の皆様、本当にありがとうございました。

三橋 遵



思えば京都芸大に努めて30年が経ちました。今熊野で学部4年間、専攻科1年間を過ごし、杣掛に専攻科の2回生の時に移転、真っ新の校舎で1年間。専攻科終了後、成安女子短期大学(現、成安造形大学)で9年間、この間にも相国寺から長岡京への移転を経験しました。

9年たって杣掛に戻った時はすでに京芸らしい経年変化をし、あの白亜の殿堂も、染織棟の白木の床も見える影も無く驚いたのを思い出します。私が京芸に戻った当時は土曜日も授業がありました。短大の教員だった頃は、染織だけで1学年60名、目が回る忙しさで、草稿を一通りチェックするだけで2、3時間、やっと終わったと思ったら最初に見た学生がまたやって来るといった状態でした。私学という事もあり、高校訪問や夏期講習などなど1年があったという間でした。京芸でののんびりしたイメージからすれば別世界でした。京芸に戻るとそこはまだ昔の空気が流れ、教員も学生もそれぞれの時間がゆるやかに

流れていました。それにもまた戸惑いはしましたが、ちょっと嬉しくもあり安心もしました。それから30年が経ち京芸もゆっくりではあるけれど大きく変わり、オープンキャンパスやら、カリキュラムなども以前とは比べ物にならないほどしっかり計画されたりと、教員も学生もいろいろと忙しくなりました。

とは言え、やっぱり京都芸大独特の自由な創作の気風はちゃんと残っている気がします。幅広い創作の許容と多様性が保障されていることは素晴らしいことです。

やがてまた移転を控えていますが、この気質は受け継いでもらいたいものです。新しい地へのスムーズな移行と教員、学生、職員が互いに思い合える自由で開かれた、新しいものが生まれる大学になっていくことを心から望んでいます。教員、職員の方々には永きにわたりたいへんお世話になり感謝いたします。

横田 学



2002年に着任してからの18年間は、月並みな言い方ですが「あっ」という間の18年間でした。その間、主に教職課程と総合芸術学科・芸術学の指導にあたってきました。何が出来るのか、自分だから出来る事は何か、自問自答しながら、色々なことを考え試みてきましたが、なかなか結果が出せないまま時間だけが過ぎ去り、今日に至ってしまいました。

そんな中、私が役割を少しでも果たせたとと言える事は、大学と小・中学校との連携の取り組みであったと思います。大学と学校教育との関わりと言え、高等学校との関係を思い浮かべる方も多いと思います。勿論、大学にとって入学生と直接繋がる高等学校との連携はかけがえないものです。しかし、美術館やギャラリーに足を運んでくれる人、美術作品や工芸作品を楽しんだり買ってくれたりする人など、芸術を支えてくれる人を一人でも増やすことは、芸術大学にとっても重要な事です。その実現には、全ての児童生徒が図画工作や美術を学ぶ場

である小・中学校の美術教育の充実は必要不可欠なのです。そのような、学校教育と大学を結ぶ事に、私の学校教育の現場や教育行政での経験は、少しは役立ったのではないのでしょうか。

着任以来取り組んできた学校教育との連携に関わり、退任記念展「つなぐ・つながる」を2月15日(土)から3月1日(日)まで京都市立芸術大学ギャラリー@KCUAで開催致します。本展では、「つなぐ」と題して、着任から今日まで取り組んできた小・中学校との連携研究の実践記録を、「つながる」と題して、小学校での滞在制作「境谷小レジデンス」や「渉成小レジデンス」において、共に取り組んできた学生・卒業生の作品及び滞在制作に関わるコメント等を展示する予定です。ご高覧頂ければ幸いです。

最後になりましたが、これまで様々な場面でお世話になりました、同窓生の皆さん、特に京都市立芸術大学美術教育研究会の皆様へ心より感謝いたします。

大野 俊明



私立大学での教員生活に終止符を打ち、ホッとする間もなく京都芸大日本画研究室から声をかけていただいた時には、少しの戸惑いがありました。しかし、これから日本画専攻の授業の中で、古典絵画の研究を基盤に新たな実習授業の展開を構想されている話を聞き、心惹かれるものがありました。

私自身、京都芸大専攻科生の頃から二条城二の丸御殿障壁画模写事業に参加し、48年目の現在も続けている理由は、古典絵画の本質を十分に理解しないと新たな表現を見いだすことができないと思うからです。すなわち、古典絵画を通して平面絵画の本質を知ることが新たな創作の礎となると考えています。

研究室から提案されたカリキュラムも同じような内容でした。学生たちと共に古典絵画の研究を基に新たな発想で創作に繋げる授業を進めようとしている内容に大

きな期待を抱き、お手伝いすることにいたしました。そして5年前、私学での教員生活は長かったものの、京都芸大の日本画研究室へは新任教員のような緊張感を抱きつつ研究室の扉を開けたのを思い出します。

あの日から今日まで、本当に学生たちに伝えることができたのだろうか。私自身が学生だった頃に設けられた模写室での授業は続けられてはいたのですが、それにとどまらない新たな古典研究の道筋を何か見だせないか、それを創作への足掛かりにはできないか、自問自答することばかりでした。しかし最近と同じような考えや意識を持って模写と制作に取り組んでいる学生がいることに気が付きました。このような思考や意識が創作の原点になると考えます。古典絵画の研究から発した多様な展開に期待をしつつ次の世代に繋げたいと思います。意義のある5年間を与えていただいた事に感謝申し上げます。

象の会・いろあわせ

同窓生が同窓生を紹介し、リレーしていく近況報告のコーナーです。懐かしい人と出会う楽しみ、いつか自分に廻ってくるかも知れないドキドキ感のある連載です。

かのう はるか
加納 明香

2017年(平29)油画専攻卒業
2019年(平31)絵画専攻(油画)修了

「土地と人、土地と美術」

私は今年の3月に大学院を修了しました。どうやら私はどんどん美術、そして展示に惹かれているようです。展示を見に行くのが面白いし、自分が展示をするのもプレッシャーはありますが楽しいです。私は絵を描いているのですが、その場その場での空間と作品の関係、あり方を厳密に考えていきたいです。美術は作品そのものが重要であり、そして展示はサイトスペシフィックなものだと、認識し直す日々です(一般的な場合の話ではありますが)。そのものでしなく、そこにしかない体験。だから旅との相性も良いですね。

夏には2ヶ月間ですが、生まれ育った町・近江八幡で友人2人と「ゲストハウス時」を立ち上げ、運営していました。また9月末からは約1ヶ月間、瀬戸内海の向島にあるゲストハウスで滞在制作をさせていただきました。11月初めにはそこで制作した作品を中心に大阪のギャラリーで個展を行いました。

これから2020年1月には、名古屋市で14人での企画展を行います。京芸の先輩2人も一緒に参加します。

また3月に高知市では、院1回生の時に事故で急逝した同級生、大崎真理子さんの個展に関わらせていただいています。大崎さんの大作を中心に画業の全貌を見られる展示となる予定で、会場も大きく大規模なものです。

あと少して修了から1年になりますが、このように少しずついくつかの土地とそこにいる人とつながることができました。

もうすぐ運転免許も取れる予定です…し、さらに広くいろんな展示をしたり気になる場所へ行きたい気持ちでいっぱいです。



次号に紹介される方は、
むとう もも
武藤 桃さん
2019年(平31)構想設計修了です。

おくむら としはる
奥村 壽春

1971年(昭46)工芸科陶磁器専攻卒業 ラグビー部
1973年(昭48)同 専攻科卒業



2015年に自身で撮影した旧・今熊野学舎

何と何と濃密で贅沢な6年間を過ごしたのだろうか、半世紀程経った今でも、あの頃のことを思い出します。ご指導頂いた素晴らしい先生方の事、多くの良き先輩や友人・知人の事、それらすべてが私の大切な宝となっています。

東山七条を下り、一筋目の下駄屋の角を東に入るとそこは「マンガ横丁」、その正面が異空間としての美大の校門でした。続く坂を上り、丸池辺りまで来ると、学生は互いに「仕事(=制作)?」と、「こんにちわ」の代わりの挨拶をします。自宅制作に難がある工芸科や彫刻科では、それが普通の挨拶になっていました。

この異空間では、制作を続ける内に、思いをカタチする「快感」を、いつの間にか覚えてしまうのです。学舎の内外装は勿論、教室や設備も大いに古びていましたが、一度でもその快感を味わうと、この空間こそ自分が求めていたものだとなんて思えて、記憶に強く残ります。

そしてこの感覚は、時を経て後期高齢者に近づいた私のような者でも、体が許せば「モノ作り」を続けていこうという気にさせます。

学舎を離れ現在に至るまでの自身の事、対東京芸大戦V10をめざして練習したラグビー部の事、そして今熊野学舎が突き抜けた高度成長期の秘話・逸話は尽きませんが、残念ながらこの稿を終え、別の機会に譲ろうと思います。



東近江市のギャラリー・ハクモクレンでの個展風景(2016年)



次号に紹介される方は、
きだ こうよう つぎお
樹田 紅陽(次男)さん
1971年(昭46)西洋画科卒です。

2019 年度 同窓会展

漆工(塗装)専攻の今熊野時代・沓掛時代を振り返る

2019年11月9日(土)～11月24日(日) <会場>京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA



平舘嘉邦 春馬蒔絵飾盆
1959



冬木偉沙夫 爆
1968



藤崎誠 飾棚
1956



内藤拓男 漆パネル
1957



宇野文夫 角屏風
1960



三木表悦 薄貝草文丸盆
1960



新海玉豊 輪廻シリーズ 飛び出した円
1976



新海玉豊 層雲峠高上げ蒔絵飾り箱



山口秀明 飾棚
1962



井上隆雄 今熊野学舎・写真
1965 年卒



西村千鶴 屏風"紫陽花"
1966



望月玉船 飾り箱
1968



望月玉船 游適
2008



大野護 金銀蒔絵飾り箱
1968



金子賢司 盛器
1968



田村博文 赤猿
1965



岡崎秀樹 黒漆花器
1970



山中晴夫 都会の風景
1996



片山晴比古 祭器
1975



阿佐見徹 立体造形「白と黒のユニット」
1973



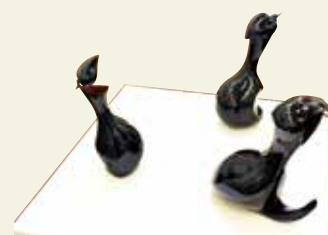
後藤健吉 飾箱
1978



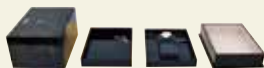
林久美 ワインカップ (7個)
1978



栗本夏樹 心域Ⅱ
1978



安井友幸 家族
1991



北原美保 炫耀 (蒔絵螺鈿硯箱)
1992



村上尚美 風の便り
1994



三木啓榮 乾漆、蒔絵、硯箱



川端圭介 死に行く
1995



笹井史恵 めばえ
1994



金潤姫 Forest in the city
1995



都呂須早苗 姉妹
1997



李東郁 夢
2000



沈明姫 自我
2001



大矢一成 森の特効薬〜どんぐり・きのこ・鳥〜
2003



中村聡美 装身具としてのたばこ入れ
2003



下條華子 浮かび上がる輪
2004



岸野有紀子 swimming with Hippo〜カバと泳げば〜
2007



宮木康 わ
2004



染谷聡 お椀獣 / 花子 お椀獣 / 太郎
2008



鶴岡舞 T-ceremony 「○△□」
2011



入澤あづさ 遥かなる音色 時空を翔る
2017



谷川美音 filtration
2013



山西杏奈 透明色の線結び
2014



熊田悠夢 旅する丘の箱
2015



鄭炳蜜 流水 I
2015



内海紗英子 旧約聖窓
2016



福場友美子 僕らはまだこの世界のほんの少し
知っているにすぎない
2017

- ・出品者数 45 人
- ・出品作品数 61 点
- ・入場者数 999 人

総合芸術学研究室

竹浪 遠

総合芸術学研究室 准教授

総合芸術学科は、現代の多様化する芸術環境の中、様々な分野・方法から実践的に芸術に関わることでできる人材教育めざして1999年に開設され、本年度は20周年の節目を迎えました(修士課程芸術学専攻は2020年が40周年に当たります)。研究室は、中央棟4階、階段を上がって廊下を左に曲がったところにある大部屋です。1学年あたり5名の学部生と、修士や研究生一人ひとりに机が割り当てられ、それぞれの研究テーマに関する本や資料が並びます。奥には、教員個々の部屋が続いていて、大部屋を通して行くことになりますので、おのずと学生が今どんなことを学んでいるのかが分かり、学生との距離が近い研究室です。



研究室内の日常風景

毎週、水曜の午後1時から「合同演習」の時間で、ミーティングもかねて2回生以上が集合します。教員も含め30名に近い人数で部屋がいっぱいになります。連絡やイベントの告知が終わると、ここからはColors(カラース)班とWeb班とに分かれて作業が始まります。

Colors(カラース)班は、京芸の制作内容や動向を幅広く伝える目的で展覧会「Colors of KCUA」の企画・実施をしています。タイトルは、学生の個性や多様なジャンルを無数の色彩にたとえ、進行形で広がる京芸の今を伝えることを目指しています。学芸員やアートコーディネーターへとつながる実践的な取り組みです。



Colors(カラース)班



「Colors of KCUA」第6回展
「問問」(2018年3月10日～
25日)のフライヤーと展示風景
(新平 誠 渚 〈Reflection
#17〉 2017年)

一方のWeb班は、研究室ホームページの運営を担当しています。研究室内の活動報告である「芸研日誌」や「学内展覧会情報」「京芸関係者展覧会情報」の発信に加え、班員がもしまわりで担当する「展覧会レビュー」ではそれぞれの興味やこだわりが光る展覧会評が随時掲載されています。日々の取材や執筆を重ねることで、文章や編集の能力が着実に養われていきます。研究室の(非)公式マスコットキャラクターであるウサギ妖精の“芸研ちゃん”も、研究室の様子や学内の日々の出来事、行事などをツイッターでつぶやいています。(いずれのコンテンツも、芸術学研究室のホームページからご覧いただけます。 <https://sougei.kyogei-ob.jp/sogewp/wp/>)



Web班

合同演習の後には、ゼミ演習の時間です。学生は、第1ゼミ(芸術の歴史と理論)・第2ゼミ(文化と感性の理論)・第3ゼミ(芸術と社会)のいずれかに属して、自己の研究テーマを深め、卒業論文の完成を目指します。担当教員とのディスカッションやゼミ内での発表を経て、半期に一度、全ゼミによる合同発表会が開催されます。3回生以上の学生、院生が定められた発表時間内に各人の研究成果を発表し、質疑応答がなされます。学会発表と同じ形式で行われ、緊張感漂う時間です。



合同発表会の様子

このように、本研究室では研究活動の集大成としての卒業論文を柱にするとともに、展覧会の企画・運営ならびに情報の発信や展覧会評の執筆など、芸術に関わる多様な学びを経ることで、将来的に芸術を通して社会と関わっていくための理論や技術、経験を幅広く実践的に習得していきます。

その準備として、1回生は芸術学の様々な分野に触れる「基礎演習A」、2回生は、作品調査や研究手法、展覧会などの企画運営の基礎を学ぶ「調査研究・企画運営演習」、デジタル機器やウェブサイトの操作・制作技術を修得する「総合芸術学基礎実技」、研究に必要な語学力を養う「専門書講読」などを履修します。教員へのインタビューを実施して、企画から撮影、執筆、編集、印刷発注までを行う「基礎演習B」では、毎年、力作の冊子が刊行されます。作品展でも配付されますので、ご覧いただいた方も多いと思います。



2018年度制作のインタビュー冊子(作品展での展示)

1回生から総合基礎や実技科目を履修し、実技専攻の先生の指導のもと他専攻の学生とともに制作体験ができることは、総合大学の人文系の美学、美術史の講座では学びにくく、当専攻の大きな特徴となっています。また、担当教員の専門も、美学、芸術学、美術・工芸史、デザイン学、教育学など幅広く、学生の多様な興味に応えた論文指導ができることも「総合芸術学」の名称通りの理想的な環境だと感じます。

以上のような教科プログラムに加え、折々に教員、学生有志から声があがって催される見学会や懇親会も、授業だけでは得難い、様々な学びのヒントを得られるコミュニケーションの場になっています。



有志での見学会(京芸の歴代校舎跡を巡る 京都御所)



有志での見学会(奈良)

2023年度に予定されているキャンパス移転を機に、京都市内の美術館・博物館やギャラリー、社寺などの史跡への移動も便利になり、本研究室の活動の輪も今以上に広がっていくと思います。様々な分野で活躍されている同窓生の皆様のお知恵もいただきながら、この20年で培ってきた研究室の親しみやすい環境やカリキュラムの良い点を受け継ぎつつ、新たな学び舎での更なる充実を目指していきたいと考えています。



交換留学生と(2019年12月)

会員展覧会

(2019年1月～2020年1月) ■同窓会にお知らせいただいた展覧会情報です。同窓会のホームページにも掲載しています。

会員作品展	
2019/1/14～26	橋本正司展 ～彫刻・版画～
1/18～2/17	イメージを染める 中井貞次の世界
1/16～22	荒瀬隆造 油彩画展
1/19～24	金井良輔展 n.55 -風の形-
3/19～31	松本和子Meets アーティスト・イン・ミュージアム
2/26～3/9	山田俊行展 クリカエスコトカサネルコト
3/1～24	生命を見つめて 井牟慶人展
3/9～24	善住芳枝展
4/4～14	重岡良子展 ～花鳥画展 野に遊ぶ～
4/9～19	FESTART OSAKA 2019 小曾根 環展 -ダイジニオモウコト-
3/5～17	天網依々 新田恭子展
4/23～28	黒田富紀子展
5/12～21	並河富美代 画集出版記念展
5/20～5/25	吉田真紀子展
5/28～6/2	石田有作 白磁展
6/4～6/9	たじまゆきひこ展
5/20～6/9	河合美和展
6/18～7/7	あばりあみ★帽子の世界 新田恭子展
7/1～6	町田藩映子個展 名前を知らない死者を想う為
7/1～13	松本静明展
7/17～21	岡田親彦 ガラスとことば遊び展 自然と共生して 有り体に
7/26～8/7	岡田親彦 ガラスとことば遊び展 自然と共生して 有り体に
8/9～14	寝屋川治水公園を描く 河野裕子個展
9/3～12	安藤謙治 一枚の紙から生まれる動物達展
9/3～12	安藤ようこ 百ねこ一座が帰ってくる！
10/21～26	長谷川睦展 万緑と深い空
11/2～16	町田藩映子個展 生きる者たちを想う為
11/18～23	小曾根環展 ダイジニオモウコト
11/23～2020/1/26	全国一の宮展～西田眞人が描く一の宮の世界～
2020/1/18～23	金井良輔展 n.56
1/17～2/9	カトマンドゥにイメージを求めて 中野光雄展
会員グループ展	
2019/1/29～2/3	会員作品展2019 吉田孝光 他
2/5～10	榮 展 -日本画5人展 河合美佳、長尾寛子、松村麻里子、池田篤展、橋田純
2/5～10 (京都)	いま、戦争の兆しに心いたも美術家たちの作品展2019京都：沖繩
2/23～3/24 (沖縄)	京都芸大同窓生 他
2/23～3/3	第5回「明日香の匠」展 町田藩映子、山本紗佑里 他
2/25～3/9	いきづく空間 -エディション5- 長谷川睦 他
3/12～17	GOOD ART 43rd Exhibition 吉田 孝光 他
3/12～17	第39回 京都工芸美術作家協会展 京都芸大同窓生 他
3/18～24	いきづく空間 長谷川睦 他
3/25～31	第33回象展 京都市立芸術大学美術学部同窓会展 同窓会会員有志
3/26～31	第42回 新匠工芸会春季展 京都芸大同窓生 他
4/9～14	第6回 ヌフ展 京都芸大OB仲間
	上山八洲子、サトキミエ、東樋口美智子、古川睦子、宮島みどり、柳田輝子、山崎和代、京都府立文化芸術会館 2階展示室
	山本加代子、依田鏡子
4/10～21	京都・ボストン姉妹都市提携60周年記念 京都工芸の精華2019小品展
4/10～5/19	京都芸大同窓生 他
4/23～28	京都・ボストン姉妹都市提携60周年記念 京都工芸の精華2019 京都芸大同窓生 他
5/3～5/4	第43回 Q人の作品展
	宇井恭子、奥田正子、奥田 迪、貴志早苗、永谷正二、吉田恵美子
	第32回京都西山高原アトリエ村展
	落合峯子、角田哲郎、貴志カスケ、貴志早苗、久保良裕、斉藤均、柴田良三
5/15～6/15	第5回 大阪御堂筋アート 2019 小曾根環 他
5/21～26	G e展 京都芸大同窓生 他
5/28～6/2	KabiRajLama&田中直子2人展 Prayers for Tomorrow 田中直子 他
6/4～6/9	4th Group 京 伊藤弘之、河合美和、小曾根環、城野愛子、善住芳枝 他
7/29～8/4	4th Group 京
6/18～22	2019(第31回)花と土と人展
6/4～9	京都芸大美術教育研究会東海支部会員 東海地区在住同窓生 他
7/29～8/4	4th Group 京 伊藤弘之、河合美和、小曾根環 他
6/11～16	16seasons【16人の現在】 石田歩、小西真理、鳥越翔海 他
6/11～23	Breeze (the group of exhibition of painters) 赤松玉女、井上よう子 他
6/26～7/8	数寄景/NEW VIEW「日本を継ぐ、現代アートのいま」 宮本佳美 他
7/8～7/13	現象学的スケッチ展 大城国夫 他
7/9～21	FACEⅢ面 赤松玉女 他
7/16～21	2019 京都銅版画協会 ミニアチュール展 前川秀治 他
7/20～8/4	ミニアチュール神戸店vol.19 わたしの万有引力 小曾根環 他
7/12～14	Misa Hoshi et AnnieChazottes a Planay 星(子守)美佐 他
7/30～8/4	第34回 反核・平和のための小品展 落合 峯子、荒瀬 隆造 他
8/2～7	第31回 4日展 京都市立芸術大学美術教育研究会 兵庫支部会員
8/10～16	2019滋賀双線美術展 京都市立芸術大学美術教育研究会 滋賀支部会員
9/3～8	コラボレーションワークス展 國松万琴×田邊朗 國松万琴 他
9/24～29	2019京都市立芸術大学美術教育研究会会員 双線美術展
10/10～22	京都市立芸術大学美術教育研究会 京都支部会員
10/12～17	陶と染織 -Tabikokoro- 大住由季、國松万琴
10/23～27	川瀬陽子 佐藤洋美 二人展 川瀬陽子 他
10/29～11/3	第74回 新匠工芸会展 望月重延 他
11/5～10	門川昭子・鶴田憲次 二人展 鶴田憲次 他
	私達の51年展 稲垣修二郎、今井文二、田丸(江崎)直子、川地巖、木下育應、小西敦雄、竹岡元次、竹田喜久恵、小西(団野)道子、木下(成田)和子、弓削(平峯)早苗、藤野京司、前田美智子、松本進、村田正彰、山本綾子、洪江(山本)雅代、弓削 徳和
11/19～24	第21回 丸池'69展 池田三郎、上田彊、奥谷澄、鎌田隆行、神野立生、木村順子、塩山 強、高崎千歳、殿南直也、藤田一郎
12/4～11	日出づる国で 京都芸大同窓生 他
2020/1/12～18	第57回 大阪双線 美術小品展 京都市立芸術大学美術教育研究会 大阪支部有志
	繪画廊
	染・清流館 ①
	阪神美術画廊(阪急阪神百貨店9階)
	TOR GALLERY
	岐阜県北方町生涯学習センターきらり
	galerie16
	染・清流館 ②
	トアロード画廊
	ギャラリー石塚小路和田
	MI Gallery
	公益財団法人 手織技術振興財団 織成館
	ギャラリーヒルゲート 1F・2F
	ギャラリー風
	ギャラリーブチボワン
	ギャラリーマロニエ
	ギャラリーヒルゲート
	STREET GALLERY
	森の小枝ギャラリー
	ギャラリー・ビー・トウキョウ ③
	ギャラリー白kuro
	大阪駅ビル前第4ビル 地下1階 展示会場
	あーとさろん宮崎
	寝屋川駅前図書館キャレル市民ギャラリー
	ギャラリーH2O
	ギャラリーH2O
	ギャラリー白3
	ギャラリー知 ④
	ギャラリー白 ⑤
	良県立万葉文化館
	TOR GALLERY
	染・清流館 ⑥
	ギャラリー中井
	京都府立文化芸術会館2F
	ギャラリーヒルゲート(京都)
	沖繩愛楽園交流会館(沖縄)
	奈良県立万葉文化館
	ギャラリー白 ギャラリー白3
	京都市美術館 別館1F
	京都府立文化芸術会館 ⑦
	Oギャラリー
	東京・京橋ギャラリーくばた
	京都府立文化芸術会館 ⑧
	生活あーと空間 ばるあーと
	中信美術館
	京都府立文化芸術会館 1階展示室
	京都西山高原アトリエ村
	大阪市役所1階 玄関ホール 他
	京都市美術館別館
	ギャラリー恵風
	GALLERY あじさい
	あかね画廊
	セントラル・アートギャラリー
	GALLERY あじさい
	あかね画廊
	ギャラリーヒルゲート ⑨
	ギャラリーa
	阪急うめだギャラリー(阪急うめだ本店9階)
	ギャラリー白
	ギャラリーモーニング
	ギャラリー ヒルゲート
	ギャラリー島田
	L'atelier d' Annie a Planay Bourgogne France
	ギャラリーかもがわ
	南天荘画廊
	守山市民ホール 展示室
	ギャラリーマロニエ
	ギャラリー吉象堂
	カンディハウス大阪
	トアギャラリー
	京都市美術館別館
	ギャラリー Create 洛
	ギャラリー吉象堂
	ギャラリー吉象堂
	GAKKERY wks.
	大阪現代画廊・現代クラフトギャラリー



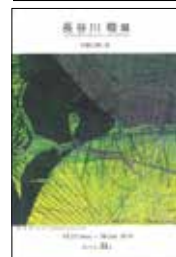
①



②



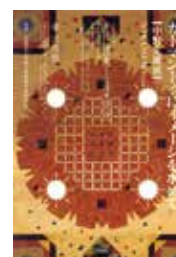
③



④



⑤



⑥



⑦



⑧



⑨



⑩



⑪

学内消息（資料）

(2019年1月～12月)

1月10日～	1月31日	永楽善五郎特任教授退任記念展（芸術資料館）
1月10日		安藤忠雄氏による特別公演（大学構内）
1月12日～	1月27日	移転整備プレ事業 教室のフィロソフィー Vol.07 冬木遼太郎個展「内的相互 One another one」（元崇仁小学校）
1月12日～	2月11日	状況のアーキテクチャー展（京都市立芸術大学ギャラリー@ KCUA）
1月19日～	1月20日	2019年度大学入試センター試験
2月 8日～	2月11日	2018年度作品展（本学構内・元崇仁小学校）
2月 8日～	2月11日	2018年度博士有志展「INTERIM SHOW」（大学構内）
2月16日～	3月 3日	同窓会展（京都市立芸術大学ギャラリー@ KCUA）
2月16日～	3月 3日	前田耕平「パンガシアノドン ギガス」（京都市立芸術大学ギャラリー@ KCUA）
2月20日～	2月22日	京都芸大「境谷小学校レジデンス」平成30年度京都市立境谷小学校 作品展（京都市立境谷小学校）
2月25日～	2月26日	2019年度美術学部入学試験
3月 3日		2019年度大学院美術研究科博士（後期）課程入学試験
3月 5日～	3月 8日	京都芸大「渉成レジデンス」平成30年度下京渉成小学校 作品展（京都市立渉成小学校）
3月 7日		2019年度美術学部・大学院美術研究科博士（後期）課程合格発表
3月 9日～	3月10日	アルティ・アーティスト・プロジェクト舞台公演「音×彫刻×身体@ ALTI また夜は来る」（京都府立府民ホール アルティ）
3月 9日～	3月24日	出原司教授退任記念展「かいじゅうv s かいじゅう」（京都市立芸術大学ギャラリー@ KCUA）
3月 9日～	3月24日	移転整備プレ事業 教室のアンソロフィー Vol.08 松浦茜個展「荒涼とした地に麗々と線をひく。」（元崇仁小学校）
3月18日～	5月31日	駅ナカアートプロジェクト2019 デザイン科学生の作品を展示（地下鉄二条城前駅）
3月25日		2018年度卒業式・学位記授与式
3月31日		出原司教授、塚田章教授、秋山陽教授、永楽善五郎特任教授退任
4月 1日		谷内春子講師、児玉靖枝特任教授、田中栄子准教授、若杉聖子講師、上田順平特任講師、砂山太一講師、着任
4月 1日～	2020年1月	2019年度ロイヤル・カレッジ・オブ・アート（イギリス）、国立高等美術学校（フランス）、国立高等装飾美術学校（フランス）、ミラノ工科大学（イタリア）、アールト大学（フィンランド）、韓国総合芸術学校（韓国）、中央美術学院（中国）、ポズナニ芸術大学（ポーランド）交換留学生派遣及び受け入れ
4月10日		2019年度入学式
4月11日～	5月12日	芸術資料館収蔵品展 第1期「版画 版がつくる魅惑の世界」（芸術資料館）
4月13日～	5月19日	京芸 transmit program 2019（京都市立芸術大学ギャラリー@ KCUA）
4月23日		胡明哲氏による特別授業（本学構内）
4月24日		山峰潤也氏による特別授業「ハローワールド」（本学構内）
4月28日～	5月12日	移転整備プレ事業 教室のフィロソフィー Vol.09 夏池風涯個展「F市 夢の山々をめぐる」（元崇仁小学校）
5月18日～	6月23日	芸術資料館収蔵品展 第2期「新収蔵品展」（芸術資料館）
5月23日～	5月26日	第65回五芸術大学体育・文化交歓会（五芸祭）（本学構内他）
6月 1日～	6月16日	移転整備プレ事業 教室のフィロソフィー Vol.10 Will Hall 個展「That Syncing Feeling」（元崇仁小学校）
6月 1日～	7月15日	ジェン・ポー個展「Dao is in Weeds（道在穉穉ノ道（タオ）は雑草に在り）」（京都市立芸術大学ギャラリー@ KCUA）
6月17日		2019年度オープンリサーチプログラム－博士の将来像に向けて 第1回「学校内学校を作ることから始める」（大学構内）
6月29日～	8月 4日	芸術資料館収蔵品展 第3期「ROZOME 小合友之助に始まるろう染めの伝統」（芸術資料館）
7月 1日		創立記念日
7月 6日～	7月 7日	京芸 transmit program :ART OSAKA version（ホテルグランヴィア大阪）
7月16日～	7月21日	漆工前展（大学構内）
7月25日～	7月29日	2019年度総合基礎実技展「そうきそ展」（大学構内）
7月26日～	7月29日	大学院修士課程 油画専攻「Open Studio & The Summer Exhibition」（大学構内）
7月27日～	8月18日	サンドラ・ピニオン「蒸化（ディスティレ）」（京都市立芸術大学ギャラリー@ KCUA）
8月 2日		2019年度オープンリサーチプログラム－博士の将来像に向けて 第2回「技芸としての学問・芸術－自由に生きるための」（大学構内）
8月 4日		美術学部オープンキャンパス（大学構内）
8月 5日～	8月11日	サマーアーツスクール（大学構内）
8月31日～	9月16日	吉岡俊直准教授「複眼と対称のノート」（京都市立芸術大学ギャラリー@ KCUA）
8月31日～	9月16日	ばくらとみんなは生きている5～接続可能な愛のステージ～（京都市立芸術大学ギャラリー@ KCUA）
9月14日～	9月29日	移転整備プレ事業教室のフィロソフィー Vol.11 福岡佑梨個展「回響－ひびくもの－」（元崇仁小学校）
9月17日～	10月20日	芸術資料館収蔵品展第4期「掛図と標本－美術工芸学校の教材」（芸術資料館）
9月28日～	11月3日	芸術資料館収蔵品活用展「still moving library」（京都市立芸術大学ギャラリー@ KCUA）
10月12日～	10月27日	移転整備プレ事業教室のフィロソフィー Vol.12 桐月沙樹個展「凹凸に凸凹－絵が始まる地点と重なる運動－」（元崇仁小学校）
10月17日		羽田康一氏による特別授業「古代ギリシアのブロンズ鑄造技術 現代とは異なる素材と技術の再現」（大学構内）
10月24日～	11月10日	未知を開くファシリテーター育成事業「聞こえないを聴く・見えないを視る」（崇仁地域）
10月26日～	12月 1日	芸術資料館収蔵品展第5期「模写を読む－画家は何をうつしてきたのか」（芸術資料館）
10月27日		サマーアーツスクール「中高生に向けたデザイン基礎講座」（大学構内）
11月 2日～	11月 4日	京都市立芸術大学芸大祭 2019
11月 2日～	11月10日	移転整備プレ事業 教室のフィロソフィー Vol.13 柞磨祥子個展「陰翳と漆」（元崇仁小学校）
11月 8日～	11月9日	京都駅ビル芸術祭「チョウカイハウセイサクシツ展」（京都駅ビル）
11月 9日～	11月24日	岡本秀「次元のえんそく（メタ・ピクニック）」（京都市立芸術大学ギャラリー@ KCUA）
11月 9日～	11月24日	同窓会展「漆工（塗装）専攻の今熊野時代・杏掛時代を振り返る」（京都市立芸術大学ギャラリー@ KCUA）
11月10日～	11月15日	2020年度大学院美術研究科修士課程入学試験
11月21日		2020年度大学院美術研究科修士課程合格発表
11月23日～	12月8日	移転整備プレ事業 教室のフィロソフィー Vol.14 森 友香個展「蔓延る脈」（元崇仁小学校）
11月28日～	12月8日	第30回留学生展（京都市立芸術大学ギャラリー@ KCUA）
12月13日		2019年度オープンリサーチプログラム－博士の将来像に向けて 第3回「博士ラボ・共有工房のあり方について」（大学構内）
12月14日～	2020年2月2日	ジョン・ジョナス京都賞受賞記念展覧会「Five Rooms For Kyoto:1972-2019」（京都市立芸術大学ギャラリー@ KCUA）
12月18日		赤松学長による特別講義「ON THE TERRACE（テラス構想特別講義）」講演：堀場厚氏（大学構内）
12月21日～	12月22日	THE GIFT BOX 2019 アーティストが提案する特別なギフト。（京都文化博物館別館ホール）

事務局だより

- 「京都芸術大学」名称問題は困ったものですが、いま大阪地裁で裁判が行われています。＜無理が通って道理が引く込む＞ことの無いよう、正しい判断を求めたいものです。
- 2019年度の「芸大作品展」が今年も大学キャンパスを会場に、2月8日～11日まで開催されます。同窓会賞も授与されている現役学生の力作を観に是非とも大学へお運びください。
- 今年、5年に一度の「同窓会象の会」総会開催の年でもあります。同窓生全員に参加を呼びかけ、総会に引き続き＜同窓生大集合＞の懇親交流会を開催いたします。ぜひとも参加申込くださいますようお願い申し上げます。

同窓会関係者や同窓生を名乗って、個人情報を出したり、物を売りつける事例がありますのでご注意ください

同窓会からの案内は、同窓会の所在地（大学内に設置）や電話番号が正しいことを必ず確認して対応ください。不審な点があれば同窓会へ電話ですぐに問い合わせてください。

次の場合は、事務局までご連絡ください

● 同窓会後援名義使用

同窓会会費を納入されている会員が主宰する作品展など（個展、グループ展）で同窓会の後援名義使用を希望される方はご連絡ください。

● 展覧会の案内、情報をお寄せください

同窓会へ送っていただいた展覧会の案内や情報は、同窓会ホームページや会報に掲載しています。

総会・懇親交流会：2020年7月5日（日）10:30～15:00頃
「ホテル日航プリンス京都」

- 同窓生の消息不明者に対し多くの情報が寄せられ、100名を超える方の連絡先が判明しました。ご協力に感謝申し上げます。一方、新たに100名程の不明者が発生しており、転居時などに同窓会へもご一報くださいますようお願いいたします。
- 大学移転も2020年は、実施設計の2年目となり、今夏には崇仁地域の一部建物の解体工事も始まる予定です。2023年の移転に向かって計画は着実に進んでいます。

● 満80歳以上の会員で会費免除を希望される方

過去10年間、同窓会会費を連続して納入いただいていた満80歳以上の会員で希望される方は、年会費を免除できます。

● 氏名、住所、電話、FAXなどを変更された時

お忘れになると会報などの情報をお届けできなくなりますので、郵便、FAX、メールなどの方法でご連絡ください。同窓会ホームページの住所変更フォームからも変更できます。

▶ 同窓会年会費または終身会費の納入をお願いします

昨年4月から同窓会で負担しております振込手数料が大幅に値上げされました。

つきましては、年会費をお振込みの場合は可能な限りで結構ですので、数年分をまとめて納入していただくか、終身会費納入へ移行をお願いいたします。

ご寄付の御礼（芸大祭実行委員会より）

日脚伸ぶ立春の候、同窓生の皆様におかれましては、ますますご隆盛のこととお喜び申し上げます。

さて、令和元年度の芸大祭開催にあたりまして、ご寄付にご協力いただき誠にありがとうございました。皆様より計294,000円ものご厚意を賜り、私ども学生の活動へご理解とご支援をいただきましたこと、心より御礼申し上げます。頂いたご厚意は、校門装飾であるメインオブジェ、ならびにメインステージ制作費として大切に使用させていただきました。また今年度は、3日間で延べ4,365人ものお客様にご来場いただき、盛況のうちに幕を閉じることができました。

重ねて御礼申し上げます。

今年度の芸大祭は終了いたしました。来年度に向け新たな実行委員会が発足しております。よりよい芸大祭を目指し、学生一同取り組みを進めて参りますので、今後とも一層のご協力を賜りますよう、なにとぞよろしくお願い申し上げます。

京都市立芸術大学 芸大祭実行委員会
実行委員長 高岸 航平（漆工専攻 2回生）
会計長 増川 知乃（日本画専攻 2回生）

編集後記

- 令和への改元より早や2年目の幕開けとなりました。来たる東京オリンピック、パラリンピック開幕に向け、日本中がますます盛り上がりを見せており、京都芸大も、また一歩、移転に近づきました。
- 同窓会では、2023年の移転に向けて、2016年に開催しましたアートフェアに続く移転支援事業となる「京都芸大同窓会アートオークション2021」（2021年1月8日～1月11日）の開催を計画しています。実行委員会にて開催内容等の検討を重ねているところです。予算案を含め、7月の同窓会総会にて諮ることとなります。

オークションの出品募集（エントリー）期間は、9月1日～10月31日に行う予定です。前回のアートフェアに引き続き、同窓会会員の皆様のお力をお借りし、少しでも多くの支援につながれば、と願っております。

- はたして今年はどうなるのでしょうか？災害のない平和な一年であってほしいと願うばかりです。

「京都芸術大学」名称問題も早く決着し、本学の歴史と伝統に裏付けされた唯一無二の名称であり続けることを確信しています。

- また今年一年、皆様のお力添えをいただきながら同窓会と大学が力を合わせ、同窓会象の会がますます発展していきますことを願ってやみません。

- 最後になりましたが、本報70号発刊にあたり、記事を執筆していただきました方々に厚く御礼申し上げます。今後とも皆様のご投稿、ご意見、ご要望をお寄せいただきますようお願い申し上げます。

（会報編集委員長：阿部 緑）